

巻頭言

「人が集まるということ」

理事長 新谷 友良

聞こえが低下して人との交流がむつかしくなって30年ほどが経過します。仕事の上でのコミュニケーションがむつかしくなり、友人・知人との人間関係もスローモーションを見るように壊れていきました。事情の分からない仕事関係の人や友人・知人も非常な戸惑いを持ったのではないかと思います。聞こえないことは、聞こえる人・聞こえない人を問わず、人と人との関係を壊していきます。

そんな聞こえとの葛藤の中でしたが、初めて参加した協会のサークルのあとの飲み会で、盃を交わしていたサークルの先輩が、話が通じていないと感じたのか、話していることを何枚も紙に書きだしました。今から振り返れば単なる筆談にすぎませんが、手話も要約筆記も知らない頃でしたので、相手が自分に向けて書いて話しかけてくることは驚きでした。そして、久しく忘れていた生身の人間との交流を体験し、とっても嬉しくなりました。

前にも書きましたが、人間は全身のいろいろな能力を使ってコミュニケーションをしています。例えば五感、視覚・聴覚・触覚・味覚・臭覚です。私たちは聞こえないので、聴覚がないことでコミュニケーションが取れないと考えますが、他の感覚に障害を持った人も私たちとは別のコミュニケーションの困難さを感じていて、もう少し話を広げると失語症や移動に困難を抱える人もコミュニケーションに別の困難を抱えていると想像されます。そしてもっと大切なことは、そのような体の機能の障害でコミュニケーションが困難な人と向かい合う障害のない人も、やはりコミュニケーションの困難を持つということではないかということです。

この巻頭言が届くころには、第23回全国中途失聴者・難聴者福祉大会は無事終了していることと思います。日ごろ頻繁に顔を合わせている人とも、初めて会う人とも、そのような場ではいつもと違う服を着て、いつもと違う顔で交わることができます。人が出会い、コミュニケーションするときには、様々さまざまな困難がありますが、生身の交流には匂いがあります。肌のふれあい・空気のふれあいがあります。アナログ人間なので、SNSやSkypeにはどうしても身を引いてしまいます。聞こえに悩んでいたころの気持ちを反芻して、人が集まることに、できるだけ新鮮な喜びをもっていたと思います。